

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2016年10月12日公表ほか USDA Crop Production

8月の農業気象概況(2016年10月12日公表)

9月初めにはハリケーン・ハーメインにより、フロリダ州のメキシコ湾沿岸地域タラハシー南東部で土砂崩れが起き、9月末には強い勢力を持つハリケーン・マッシュウがカリブ海を横断して米国南東部に多大な被害を与えた。さらに、熱帯性低気圧・ジュリアにより、大西洋沿岸地域の中部から南部が大雨に見舞われた。一方、太平洋東方の熱帯性低気圧・ロスリン、ハリケーン・ニュートン及びハリケーン・パインといった熱帯低気圧の影響で、米国南西部で降水量が多かった。

9月初めのハリケーン・ハーメインによる多雨と強風により短期間ではあったが、大西洋沿岸地域南部の開花した綿花など、収穫を控えた作物の品質に影響が生じた恐れがある。しかし、米国南東部の内陸部の大部分の地域では、9月の天候は高温で乾燥しており、夏の作物の成熟が進み、収穫が促進された。ただし、土壌湿度が低下したことから、牧草の生育は抑制された。生育期間後半の高温は北部地域にまで広が

り、米国北東部では、一時的な降雨はあったものの、2002年以来最悪の早魃に見舞われた。

これと対照的に米国中西部北方では、9月の多雨により農作業に支障が生じ、低地では洪水が起きた。大雨の最盛期であった9月25日現在のデータによれば、表土の土壌湿度が過剰となり、ミネソタ州が42%で米国第1位、ウィスコンシン州が40%、アイオワ州が30%でそれに続いた。9月末に、アイオワ州のウォータールー及びシーダーラピッドといった地区でシーダー川(Ceder River)の水位が、2008年6月に次いで史上2番目に高い値となった。

その他の大平原(グレートプレーン)地域及びコーンベルト地帯では、時折、降雨による農作業の遅れがみられたものの、降水量の少ない状態が続いた。米国中央部の天候条件は、温暖な気温に恵まれ、乾燥した良好な状態が続いたことから、夏作の生育が進み、農作業に支障が生じることなく、早生品種の収穫及び冬作コムギの作付が順調に進められた。

その他の地域では、米国西部で冷涼な気温と温暖な気温が交互に繰り返され、全般的な傾向としては南西部砂漠地域(晴天が

少なく、熱帯低気圧による降雨が多かった)及び北西部地域(数度にわたり、寒冷前線が通過した)で平年並みに比べて低温であった。冷涼な気温及び降雨により、北西部で農作業にわずかな遅れが生じ、カリフォルニア州では9月後半の高温により、作物の成熟が進み、農作業が促進された。

9月の農業概要(2016年10月12日公表)

9月には、東部を中心に米国の3分の2の地域で季節はずれの温暖な気温となり、コーンベルト地帯、大西洋沿岸中部地域及び南西部で、9月の平均気温が平年を2.2℃以上上回った。月間降水量が平年を大きく上回った地域を除き、米国の多くの主要農業生産地域でこのような温暖な気温が続いたことで、秋に収穫される作物の成熟が進み、収穫作業が促進された。ロッキー山脈以西の大部分の地域で、9月の気温は冷涼で平年を下回るか、あるいは平年に近い値であった。降水量は米国各地で差異があり、中西部の北方、東部の大西洋沿岸地域及びカンザス州では、9月の総降水量が10インチを上回った。フロリダ州及び太平洋沿岸南部の諸州では、9月初めに熱帯性低気圧・ハーメインによる大雨と強風の影響を受けた。9月後半にはミシシッピ渓谷地域上流に雨が多く、すでに十分な降水量がもたらされていたアイオワ州、ミネソタ州及びウィスコンシン州に洪水が生じた。しかし、西部、アパラチア山脈南部及び北西部では雨不足で、南西部では早魃が続き、ニューイングランド地域及びジョージア州北部で

はさらにひどい早魃状態となった。

乾燥インゲンマメ

2016年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は前年度から8%減少して126万1,000tとなる見込みである。作付面積は2015年度に比べて6%減少して67万1,800haとなる見込みである。収穫面積は2015年度に比べて8%減少して63万5,400haとなる見込みである。米国全体の平均単収(単位面積当たり収穫量)は1,985kg/haの見込みであり、2015年度に比べて5.4kg向上している。

ノースダコタ州では、作付けは6月26日までに完了しており、最近5年間の平均に比べてわずかに早くなっている。収穫は10月2日までに70%が終了しており、最近5年間の平均の74%に近い値となっている。北東部の一部の地域では、降水量が過剰であったことで収穫を断念した面積が生じたが、前年度に比べて単収が高かったことで、生産量の減少に歯止めがかかった。

ミシガン州では、サム地域で6月の乾燥した生育条件の影響が生じている。多くの生産者が7月及び8月の限られた地域に降った雨では作物の生育が十分に回復できなかったとしている。9月に穏やかな天候が続いたおかげで、9月末には予定より早く収穫にかかることができた。10月2日までに58%の収穫が終了しており、前年に比べてわずかに早まっている。収穫時期の天候条件はおおむね良好であり、いくつかの地域で嵐による遅れが見られた程度で

あった。

ミネソタ州では、6月12日までに作付けの大部分が終了しており、最近5年間平均に比べて2週間早かった。収穫の94%が10

月2日までに終了した。10月2日の時点でネブラスカ州の収穫は73%が終了している。

表1 米国の乾燥インゲンマメ生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2015	2016	2015	2016	2015	2016	2015	2016
オーストリアン ウィンタービー	13,760	13,760	8,500	9,710	1.39		11,790	
乾燥インゲンマメ	714,040	670,370	692,590	634,350	1.97	1.99	1,366,270	1,259,900
ヒヨコマメ 3/	83,970	129,950	82,190	112,300	1.39		114,440	
大粒	54,750	84,980	53,100	75,640	1.38		73,260	
小粒	29,220	44,960	29,100	36,660	1.42		41,190	
乾燥エンドウ	462,560	513,150	438,480	486,440	1.89		829,300	
レンズマメ	199,510	376,360	192,630	359,360	1.24		239,320	
リンクルドシードビー	(未詳)		(未詳)		(未詳)		17,420	

(未詳) データが入手できていない。

(X) 適用できない。

1/ 作付面積はすべての用途のものを含む。

2/ 四捨五入により、合計の数値に誤差が生ずる可能性がある。

3/ ヒヨコマメは乾燥食用インゲンマメに含まれる。

2016年10月12日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)

[データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度の推定である。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。]

表2 米国の乾燥インゲンマメ収穫面積、単収及び生産量 (2015年及び2016年10月1日現在推定)

州名	収穫面積 (ha)		単収 1/ (t/ha)		生産量 1/ (t)	
	2015	2016	2015	2016	2015	2016
アリゾナ州 2/	3,680	(未詳)	2.32	(未詳)	8,530	(未詳)
カリフォルニア州	18,010	19,430	2.59	2.60	46,670	50,530
コロラド州	18,820	17,400	2.04	2.02	38,400	35,110
アイダホ州	48,160	56,250	2.02	2.24	97,110	126,110
カンザス州 2/	3,160	(未詳)	2.80	(未詳)	8,850	(未詳)
ミシガン州	110,070	83,370	2.28	2.00	250,970	166,330
ミネソタ州	73,650	59,890	2.40	2.41	176,720	144,330
モンタナ州	19,140	39,860	1.50	1.57	28,760	62,550
ネブラスカ州	53,010	52,610	2.67	2.56	141,380	134,440
ニューメキシコ州 2/	5,220	(未詳)	2.29	(未詳)	11,970	(未詳)
ニューヨーク州 2/	3,160	(未詳)	1.69	(未詳)	5,350	(未詳)
ノースダコタ州	256,980	230,670	1.57	1.70	403,740	392,990
オレゴン州 2/	3,640	(未詳)	2.58	(未詳)	9,390	(未詳)
サウスダコタ州 2/	4,690	(未詳)	1.98	(未詳)	9,300	(未詳)
テキサス州	11,330	10,520	1.57	1.68	17,780	17,690
ワシントン州	44,110	52,200	1.63	2.02	71,760	105,320
ウィスコンシン州 2/	3,200	(未詳)	2.27	(未詳)	7,260	(未詳)
ワイオミング州	12,550	12,140	2.58	2.02	32,340	24,490
米国全体	692,580	634,350	1.97	1.99	1,366,280	1,259,900

(未詳) データが入手できていない。

1/ 夾雑物を除去した値。

2/ 2016年には推定作業が行われていない。

2016年10月12日公表、米国農務省 (USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局 (NASS)。

表3 米国の乾燥インゲンマメの州別及び銘柄別作付面積の推移（2015年及び2016年8月1日現在の推定値）

州名及び銘柄名	2015 (ha)	2016 (ha)	州名及び銘柄名	2015 (ha)	2016 (ha)	州名及び銘柄名	2015 (ha)	2016 (ha)
ラージライマ			ライトレッドキドニー			小粒ヒヨコマメ(ガルバンゾ、直径20/64インチ未満)		
カリフォルニア州	4330	5580	ネブラスカ州	7120	1740	アイダホ州	12950	15380
ベビーライマ			ニューヨーク州 2/	930	(未詳)	モンタナ州	(D)	(D)
カリフォルニア州	3600	2750	オレゴン州 2/	320	(未詳)	ネブラスカ州	-	(D)
ネイビー			ワシントン州	1460	400	ノースダコタ州	2020	1620
アイダホ州	(1/)	(1/)	米国全体	27190	11450	オレゴン州 2/	(D)	(NA)
ミシガン州	32370	27520	ダークレッドキドニー			サウスダコタ州 2/	-	(NA)
ミネソタ州	20030	17280	カリフォルニア州	1210	490	ワシントン州	8090	11330
ネブラスカ州	(1/)	(1/)	アイダホ州	610	770	その他 3/	6150	16630
ノースダコタ州	41280	36020	ミシガン州	1820	1210	米国全体	29220	44960
オレゴン州 2/	(1/)	(未詳)	ミネソタ州	21490	19300	大粒ヒヨコマメ(ガルバンゾ、直径20/64インチ以上)		
サウスダコタ州 2/	1170	(未詳)	ニューヨーク州 2/	970	(未詳)	カリフォルニア州	3120	4170
ワシントン州	(1/)	(1/)	ノースダコタ州	1290	1540	アイダホ州	15380	21850
ワイオミング州	(1/)	0.7	オレゴン州 2/	320	(未詳)	モンタナ州	(D)	(D)
米国全体	95260	81500	ワシントン州	1170	570	ネブラスカ州	80	(D)
グレートノーザン			ウィスコンシン州 2/	3200	(未詳)	ノースダコタ州	970	3930
アイダホ州	1090	1010	米国全体	32090	23800	オレゴン州 2/	(D)	(NA)
ネブラスカ州	14970	15500	ピンク			サウスダコタ州 2/	1300	(NA)
ノースダコタ州	2020	1500	アイダホ州	2020	3040	ワシントン州	22260	31160
ワイオミング州	(1/)	1	ミネソタ州	1660	1700	その他 3/	11650	23880
米国全体	18090	18410	ノースダコタ州	4010	3120	米国全体	54750	84980
スモールホワイト			オレゴン州 2/	-	(未詳)	ヒヨコマメ全品種 (ガルバンゾ)		
アイダホ州	810	1210	ワシントン州	200	(1/)	カリフォルニア州	3120	4170
オレゴン州 2/	570	(未詳)	米国全体	7890	7850	アイダホ州	28330	37230
ワシントン州	690	280	スモールレッド			モンタナ州	17400	39250
米国全体	2060	1500	アイダホ州	4860	3640	ネブラスカ州	80	1250
ピントー			ミシガン州	11250	8010	ノースダコタ州	2990	5540
アリゾナ州 2/	1500	(未詳)	ノースダコタ州	2950	1340	オレゴン州 2/	400	(NA)
コロラド州	14970	14970	ワシントン州	2670	1620	サウスダコタ州 2/	1300	(NA)
アイダホ州	7690	6880	米国全体	21730	14610	ワシントン州	30350	42940
カンザス州 2/	2550	(未詳)	クランベリー			米国全体	83970	129940
ミシガン州	850	650	カリフォルニア州	160	120	その他		
ミネソタ州	4330	8980	ミシガン州	2470	1210	アリゾナ州 2/	2190	(NA)
モンタナ州	1780	1620	ワシントン州	690	-	カリフォルニア州	2100	1380
ネブラスカ州	31600	35980	米国全体	3320	1340	コロラド州	2020	2020
ニューメキシコ州 2/	5220	(未詳)	ブラック			アイダホ州	1170	930
ノースダコタ州	149330	179280	アイダホ州	1130	1340	カンザス州 2/	690	(NA)
オレゴン州	(1/)	(未詳)	ミシガン州	56660	45730	ミシガン州	2190	1540
サウスダコタ州	1170	(未詳)	ミネソタ州	13880	13400	ミネソタ州	6270	3930
ワシントン州	3640	3840	ネブラスカ州	1620	2710	モンタナ州	650	-
ワイオミング州	10120	8500	ニューヨーク州	810	(NA)	ネブラスカ州	850	1090
米国全体	234760	260700	ノースダコタ州	57470	36830	ニューヨーク州	530	(NA)
ワイオミング州	10,120	9,310	オレゴン州 2/	450	(NA)	ノースダコタ州	3720	1940
米国全体	246,050	231,880	ワシントン州	2510	2020	オレゴン州 2/	1580	(NA)
ライトレッドキドニー			米国全体	134520	102020	サウスダコタ州 2/	1420	(NA)
カリフォルニア州	360	120	ブラックアイ			テキサス州	810	810
コロラド州	320	120	アリゾナ州	(1/)	(NA)	ワシントン州	1130	1380
アイダホ州	850	610	カリフォルニア州	3320	5020	ウィスコンシン州 2/	-	(NA)
ミシガン州	3680	3160	テキサス州	11740	9310	ワイオミング州	2830	3760
ミネソタ州	9230	4210	米国全体	15050	14300	米国全体	30150	18780
乾燥インゲンマメ全品種								
米国全体							714030	694640

2016年8月12日公表、米国農務省(USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局(NASS) D) 個別の経営主体の生産量の開示を防ぐために公表せず。

1/ 個別の経営主体の生産量の開示を防ぐために、「その他」にデータを含める。

2/ 個別の経営主体の絵師さん料の開示を防ぐために、一定量のライトレッドキドニーを含む。

3/ 上記の理由で公表されていないデータを含む。

カナダ：2016年9月28日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省（AAFC）が9月1日に公表したカナダの2015/16作物年度及び2016/17作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。

乾燥エンドウ

2015/16年度のカナダの輸出量は、270万tで2014/15年度に比べて12%減少した。これは、インド及び中国への輸出量がわずかに減少したことと、バングラデシュ及び米国への輸出量が大幅に減少したことによるものである。国内利用量の急激な増加により、期末在庫量は大幅に減少した。2015/16年度の期末在庫量が少ないことから、乾燥食用エンドウの平均価格は、過去最高記録の365ドル/tとなった。2015/16年度の緑色乾燥エンドウ及び飼料用エンドウの作物年度平均価格は前年度に比べて上昇しており、黄色乾燥エンドウの価格は過去最高記録の水準に到達した。

2016/17年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC（カナダ統計局）の推定によれば、2015/16年度に比べて45%増加して過去最高記録の470万tに近い値となる見込みである。これは、単収が大幅に上昇したことと、収穫面積が15%増加したことによるものである。州別に見ると、サスカ

チュワン州が乾燥エンドウ生産量の46%を占めており、アルバータ州が49%を占め、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。しかし、期初在庫量が少なかったことから、供給量の増加率は25%に留まり、490万tとなるものと予測されている。輸出量は増加して320万tとなるものと予測されており、引き続きインド、中国及びバングラデシュがカナダの輸出先の上位三位までを占めている。期末在庫量もまた大幅に増加するものと見込まれている。カナダの供給量及び期末在庫量が多いことから、平均価格は2015/16年度に比べて低下する見込みである。

米国の2016/17作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2015/16年度に比べて11%増加して、過去最高記録の52万6,000haに達する見込みである。これは主としてノースダコタ州で作付面積の増加が見込まれていることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、大幅に増加して過去最高記録の100万tとなる見込みである。米国はカナダとの共通の市場である中国及びインドへの少量の乾燥エンドウの輸出に成功しており、2016/17年度には米国のこの市場での占有率が増加する見込みである。

レンズマメ

2015/16作物年度の輸出量は2014/15年度をわずかに下回って、210万tに留まった。

この総輸出量のうち、150万tが赤色レンズマメであり、残りの60万tが緑色レンズマメであった。インド及びトルコへの輸出量は過去最高記録だったが、中東諸国及び南アフリカへの輸出量が減少したことで相殺された。国内総利用量は過去最高記録の70万tに到達した。期末在庫量は2009/10作物年度以降で最低の水準となった。期末在庫量が大幅に減少したことから、カナダのレンズマメ平均価格は、2014/15作物年度に比べて大きく上昇した。赤色レンズマメの価格は過去最高記録に達し、これも過去最高記録となった大粒緑色レンズマメの価格を400ドル/t上回り、単年度内の価格差でも過去最高記録を達成した。

2016/17作物年度のレンズマメ生産量は、28%増加して330万tとなる見込みである。これは、カナダのレンズマメ生産量としては史上最高の記録である。単収は平年を下回るものと推定されているが、作付面積が過去最高記録であったことで部分的に相殺された。2015/16作物年度と比べて作付面積は45%増加しており、増加の大部分が赤色レンズマメの作付けによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州がレンズマメ生産量の87%を占めており、残りはアルバータ州で生産されている。期初在庫量が少なかったことから総供給量の増加率は15%に留まる見込みである。輸出量は前年度に比べてわずかに増加して220万tとなる見込みである。期末在庫量は大幅に増加して40万tとなる見込みである。供給量が多く、品質が平年並み以下である

とみられていることから、平均価格は2015/16作物年度を大きく下回る見込みである。

米国の2016/17作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2015/16年度に比べて急激に増加して過去最高記録の36万4,000haとなる見込みであるが、これはモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積が増加したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2016/17作物年度の米国のレンズマメ生産量は、AAFCの予測によれば、前年度に比べて大幅に増加して50万t近い値となる見込みである。米国产レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きインド及びEU諸国であり、特にスペインへの輸出が顕著となる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2015/16作物年度の乾燥インゲンマメ輸出量は、米国及びメキシコの需要が強いことから、2014/15作物年度に比べて増加する見込みである。EU諸国及び米国が引き続きカナダ産乾燥インゲンマメの主要な市場であり、これより少量が日本、メキシコ、中東及びアフリカ諸国へ輸出されている。北米全体の供給量が増加していることが2015/16作物年度の米国及びカナダの乾燥インゲンマメの価格、特にカラード・ビーンズの価格が低下することの主な原因となっている。

2016/17作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は2015/16作物年度に比べて

わずかに増加して26万tになると予測されており、これは主にマニトバ州で作付面積がやや増加したことによるものである。州別に見ると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ生産量全体の45%を占めており、マニトバ州が32%、アルバータ州が21%で、残りがケベック州となっている。期初在庫量が減少したことから、総供給量は減少する見込みである。輸出量は前年度に比べて減少する見込みである。その結果、期末在庫量は増減なしとなる見込みである。北米全体での供給量がやや減少する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格はわずかに上昇するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、10%減少して50万6,600ha余りとなる見込みであるが、これは主としてミシガン州で作付面積が減少したことによるものである。2016/17作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、米国農務省の予測によれば、2015/16作物年度に比べて減少して110万tとなる見込みである。最も増加が顕著なのはピントー・ビーンであり、最大の減少を示しているのはブラック・ビーンである。

ヒヨコマメ

2015/16作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、2014/15作物年度のほぼ2倍近い15万1,000tとなり、2000/01作物年度以来最大の輸出量となった。米国及びパキス

タンへの輸出量が過去最高記録であったことが、このような輸出量の増加の背景となっている。供給量が減少したことと、輸出量が増加していることにより、期末在庫量は大きく減少して過去5年間の平均を下回った。大粒のカブーリ種の価格が過去最高に近い値となったことから、平均価格は大幅に上昇した。

2016/17作物年度の生産量は27%増加して11万4,000tとなる見込みであるが、これは作付面積が大幅に増加したことによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ生産量全体の94%を占め、残りをアルバータ州が占めている。期初在庫量が減少したことにより、総供給量は前年度に比べて40%減少する見込みである。輸出量は2015/16作物年度に比べて減少する見込みであり、期末在庫量も引き続き減少する見込みである。カナダの期末在庫量の減少が見込まれているものの、平均価格は低下する見込みである。

2016/17作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、過去最高記録の12万9,500haとなる見込みである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2016/17作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、20万tで前年度の2倍近い値となる見込みである。米国のヒヨコマメの主な輸出市場は、インド及びEU諸国である。

表4 カナダの豆類作付面積・収穫面積、単収その他（2016年9月）

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2014-2015	2015-2016[f]	2016-2017[f]	2014-2015	2015-2016[f]	2016-2017[f]	2014-2015	2015-2016[f]	2016-2017[f]	2014-2015	2015-2016[f]	2016-2017[f]
作付面積 (1,000ha)	1,613	1,489	1,729	1,263	1,633	2,363	126	108	116	73	50	68
収穫面積 (1,000ha)	1,588	1,470	1,697	1,217	1,630	2,175	122	107	113	70	50	64
単収 (t/ha)	2.4	2.18	2.74	1.63	1.56	1.5	2.27	2.31	2.24	1.87	1.8	1.79
生産量 (1,000t)	3,810	3,201	4,655	1,987	2,541	3,263	278	249	255	131	90	114
輸入量 (1,000t) [b]	31	16	29	13	16	16	85	80	80	8	14	8
総供給量 (1,000t)	4,170	3,901	4,860	2,786	2,921	3,352	368	364	345	269	229	137
輸出量 (1,000t) [b]	3,082	2,716	3,200	2,179	2,147	2,200	307	324	310	80	151	70
国内総利用量 (1,000t) [c]	404	1,008	960	242	702	752	26	30	25	64	63	62
期末在庫量 (1,000t)	684	176	700	365	73	400	35	10	10	125	15	5
在庫量/利用量(%)	20	5	17	15	3	14	11	3	3	87	7	4
平均価格 (\$/t) [d]	260	365	260-290	585	965	530-560	830	775	800-830	515	815	790-820

[a] 作物年度(8月から7月)

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: 推定。カナダ農業食料省。但し、2015/16年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量、並びに2016/17年度の作付面積は、カナダ統計局の推定。

資料：カナダ統計局及び業界団体

オーストラリア：2016年9月13日公表 ABARES Australian crop report

概観

オーストラリアでは生産地域の大部分で冬季を通じて良好な条件に恵まれ、その結果、全般的にみて春季の初めの時点での作物の状況は極めて良好である。南オーストラリア州を含むオーストラリア東部の諸州では、冬季の降水量が平年並みから平年を上回る値であった。西オーストラリア州では、冬季の降水量にばらつきがあったが、適期に降雨が得られ、春季の初めとしては全般的に良好な状態である。

一部の地域、特にニューサウスウェールズ州及び南方に位置する西オーストラリア

州では、冬季の降水量が非常に多かったことから、作物が冠水した。これによってこれらの地域では単収が抑制される見込みである。

最新の向こう3カ月間降水量予測（2016年9月から11月）は2016年8月25日に公表されたが、これによれば、オーストラリアの大部分の生産地域で春季の降水量は平年並みであると気象庁は予測している。

冬季を通じて全般的に良好な条件に恵まれたことと、春季の降水量が良好な見通しであることから、2016/17年度の冬作生産量の予測はABARESによる2016年6月時点での予測値から上方修正された。すべての主要生産州について、生産量の予測値が上方修正された。

表5 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2014-15	2015-16 s	2016-17 s	2014-15	2015-16 s	2016-17 f
ヒヨコマメ	425	661	822	555	1,013	1,234
ファバビーン (ソラマメ)	164	282	293	284	319	492
フィールドピー	237	238	242	290	205	317
レンズマメ	189	232	253	242	258	365
ルーピン	443	490	517	549	607	705

f: ABARESによる予測。s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

資料: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表6 州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t
ヒヨコマメ												
2016-17 f	335	491	15	20	450	700	18	20	3	3	0	0
2015-16 s	291	439	13	5	338	555	17	11	3	3	0	0
2014-15	209	282	26	52	165	201	21	16	3	4	0	0
2015/16年度までの5年間の平均	249	342	37	46	217	326	18	18	4	5	0	0
フィールドピー												
2016-17 f	50	75	49	60	0	0	112	140	31	42	0	0
2015-16 s	48	73	54	21	0	0	114	82	22	29	0	0
2014-15	51	66	51	65	0	0	110	127	25	32	0	0
2015/16年度までの5年間の平均	49	64	49	56	0	0	112	135	40	46	0	0
レンズマメ												
2016-17 f	0	0	111	130	0	0	142	235	0	0	0	0
2015-16 s	3	2	100	50	0	0	130	206	0	0	0	0
2014-15	1	1	86	80	0	0	102	162	0	0	0	0
2015/16年度までの5年間の平均	1	1	84	89	0	0	100	155	0	0	0	0
ルーピン												
2016-17 f	51	50	33	30	0	0	72	80	361	545	0	0
2015-16 s	62	76	33	24	0	0	70	61	326	445	0	0
2014-15	56	66	32	26	0	0	68	75	287	382	0	0
2015/16年度までの5年間の平均	62	69	34	30	0	0	64	72	332	473	0	0

f: ABARESによる予測。s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

資料: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表7 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

作物名	2009-10	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14	2014-15
	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)
生産量						
ルーピン	823	808	982	459	626	549
フィールドピー	356	395	342	320	342	290
ヒヨコマメ	487	513	673	813	629	555
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	470	621	416	290	310	306
フィールドピー	196	95	130	145	175	124
ヒヨコマメ	1	39	93	1	0	1
輸出量						
ルーピン	353	186	565	169	316	243
フィールドピー	162	302	215	177	169	168
ヒヨコマメ	503	474	581	853	629	663

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ピー及びルーピンの市場年度は、11月から10月まで。在庫量の増減があることから、生産量は、単年度内の見かけ上の国内利用量と輸出量を足した値とは一致しない場合がある。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。

資料: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表8 豆類価格の推移

作物名	2014	2015	2015	2015	2015	2016	2016
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
	豪ドル/t						
国内価格: ルーピン(クィナナ調べ)	322	350	320	322	320	297	270
国内価格: ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	449	607	768	841	794	993	1115
国内価格: フィールドピー(メルボルン調べ)	361	433	530	534	519	555	591
輸出価格: ヒヨコマメ b	571	618	699	874	865	908	1055
輸出価格: フィールドピー b	462	513	575	544	568	613	646

b: 単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注: 第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、米国農務省、油糧種子についてはWorld Markets and Trade(ワシントンDC)